

news

抗加齢医学会でKA21株の新知見を発表
ヒト二重盲検試験で
男性機能の改善効果など確認

東栄新薬

東栄新薬(東京都三鷹市、0432267310)は、ブラジル産露地栽培アガリクスKA21株を用いたヒト臨床試験で男性機能の改善効果を確認し、6月26、28日に開催された「第26回日本抗加齢医学会総会」にて、至学館大学健康科学部・多田敬典教授およびクリニックと共同で発表した。



本研究では、40才以上の中高年男性15人を対象に、KA21株(800mg/日)もしくはプラセボ

を8週間摂取する二重盲検試験を実施し、摂取前後で男性更年期症状(A・MS)などを評価。その結果、試験前のAMSスコアが重症群た

な被験者において性機能の有意な改善が認められたほか、重症・中度群では早朝勃起(朝立ち)の有意な改善が確認され

た。精神面では「憂うつな気分」が摂取前後で悪化するのを抑制することが分かった。この結果から、KA21株の摂取が特にAMSスコアの重症群および中度群において性機能関連項目の改善に寄与する可能性が示唆された。

また、早朝勃起の改善や憂うつな気分の維持が確認されたほか、中高年男性におけるQOLの維持・パフォーマンス向上に有用である可能性が示された。

れたと結語付けた。

同社は、本年2月に男性更年期障害の改善に関する特許(特許第7818243号)を取得しており、元井薬品社長は「男性更年期」に対する社会的関心が高まる中、今後もKA21株の有用性を訴えていきたい」と意気込む。

このほか、KA21株の免疫機能に関する東京薬科大学免疫学教室との共同研究が同総会の「優秀論文」に選出されるなど、高い注目を集めた。

同社では、既存の免疫以外にも、育毛(男女)、男性更年期を対象とした医療機関向け製品や、原料供給の引き合いが増えているという。